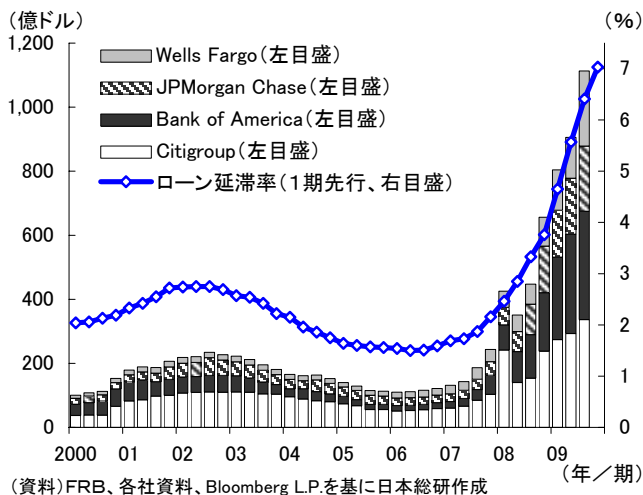


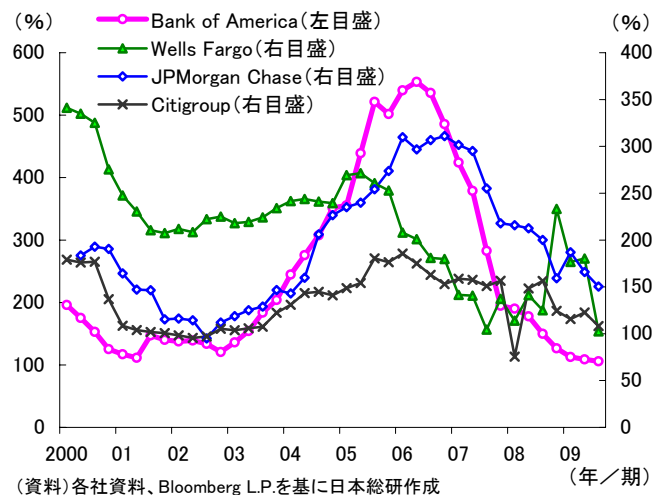
厳しさが続く米国金融情勢

- (1) 米国では、大手金融機関が政府による経営関与から脱却する動きを加速。バンク・オブ・アメリカが12月9日に公的資金450億ドルを完済したのに続き、23日にはウェルズ・ファーゴが250億ドル全額を、シティグループが450億ドルのうち200億ドルを返済。
- (2) もっとも、金融情勢が安定化に向かっているとみるのは早計。ローン延滞率の上昇に歯止めがかかっていないなか、4大銀行の不良債権額は増加基調（図表1）。金融機関は多額の貸倒引当金を計上しているものの、不良債権の増加ペースに追いついておらず、引当金によるカバー率は低下（図表2）。財務状況に改善の兆しはみえず。
- (3) こうした状況を背景に、商業銀行の貸出残高は減少が続く一方、現金や国債などの安全資産の割合が上昇しており、金融機関のリスク回避姿勢が一段と顕著に（図表3）。
- (4) 民間向け貸出の減少は景気下押しに作用。とりわけ、間接金融が主とみられる中小企業では資金繰りの悪化がなお深刻で、企業の倒産件数も高水準（図表4）。金融不安が企業倒産と不良債権の増加を招き、これが金融不安を一段と増幅させるという悪循環を招く恐れも。

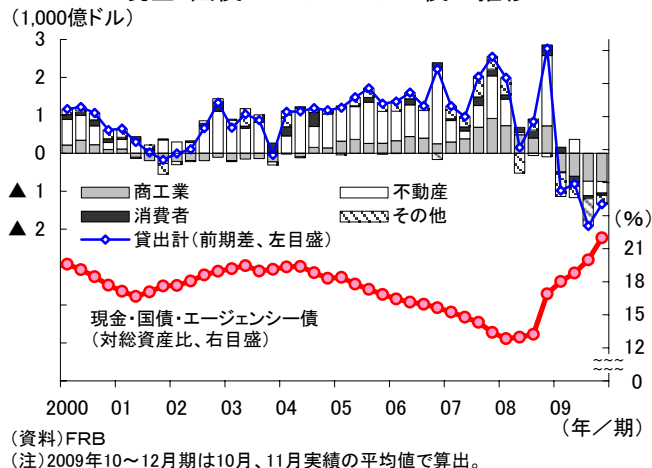
（図表1）米4大銀不良債権額とローン延滞率の推移



（図表2）不良債権に対する貸倒引当金カバー率の推移



（図表3）米国商業銀行貸出残高と現金・国債・エージェンシー債の推移



（図表4）中小企業資金繰り判断DIと企業倒産件数の推移

